





## A P E C 報 告 書 目 次

1. 横浜市保健部局の対応	横浜市健康福祉局	山田裕之	p. 331
2. 横浜市消防局の対応	横浜市消防局西消防署	松原正之	p. 359
3. 神奈川県への対応	神奈川県保健福祉局	金井信高	p. 363
4. 集団災害対応			
1) 災害医療対応計画 (DMAT APEC 対応マニュアル)			
	国立病院機構災害医療センター	近藤久禎	p. 368
2) 本部活動	国立病院機構災害医療センター	市原正行	p. 479
3) 横浜配備DMATの活動	前橋赤十字病院	中村光伸	p. 498
	東京医科歯科大学大学院	大友康裕	
4) 羽田配備DMATの活動	山形県立中央病院	森野一真	p. 517
	国立病院機構災害医療センター	井上潤一	
5) 成田配備DMATの活動	東北大学大学院	山内 聡	p. 530
	愛知医科大学	中川 隆	
6) 横浜市内の病院の準備			
	神奈川県警友会けいゆう病院	湯浅洋司	p. 537
	横浜市立大学附属市民総合医療センター	森村尚登	p. 539
	横浜市立みなと赤十字病院	伊藤敏孝	p. 544
	済生会横浜市東部病院	船曳知弘	p. 548
	労働者健康福祉機構横浜労災病院	中森知毅	p. 551
7) 現場医療活動マニュアル	藤沢市民病院	阿南英明	p. 554
8) 無線について			
日赤無線の活用について	武蔵野赤十字病院	高桑大介	p. 561
MCA無線の活用について	国立病院機構災害医療センター	大野龍男	p. 573

## 1.横浜市保健部局の対応

横浜市健康福祉局 山田 裕之

2010APEC  
2010APEC  
2010APEC  
2010APEC

2010 年日本APEC横浜開催



# 救急・災害医療体制 運営結果報告書

**APEC JAPAN 2010 in YOKOHAMA**  
**7<sup>th</sup>-14<sup>th</sup> November**

平成 22 年 12 月

横浜市健康福祉局

開催地として運営を支援した横浜市健康福祉局（衛生担当部局）の取組みは、以下のとおり。

## 1 任 務

- (1) 会議参加者等の体調急変に迅速的確に対応する救急医療体制と搬送先医療機関の確保
- (2) テロ災害等の危機事案発生時の災害医療体制の確立と搬送先医療機関の確保

## 2 救急・災害医療体制の検討

- (1) 医療班及び同班ワーキンググループによる検討

平成 21 年 12 月に外務省から要請された「会場内にメディカルオフィス 2 か所の設置運営（開催国の義務）」のほか、本市の独自対応を加味した医療体制を A P E C 開催支援チーム医療班（A P E C 開催推進課、消防局緊急対策課及び救急課、健康福祉局医療政策課、病院経営局総務課、都市経営局大学調整課から構成。班長は医療政策課救急・災害医療担当課長）において検討した。

また、医療班に市内救命センター勤務医師や病院事務職員を加えたワーキンググループを設け、協力医療機関の連携体制を強固にしながら、より実務的な検討を重ねた。

- (2) 厚生労働省との協働による検討

本市における検討途上において、首脳会議期間は厚生労働省による医療チームが対応するとの情報が届いたため（外務省からの事前情報はなし）、急きょ厚労省との協議により、双方の棲み分けを行った。以後、厚労省の A P E C 救急医療体制に係る有識者会議等に横浜市も出席するなど協働して検討を重ねた。

## 3 厚労省との協働

本市では平成 21 年 10 月から検討を開始していたが、平成 22 年 5 月に「首脳会議期間中は厚労省による医療チームが対応する」「厚労省による首脳対応は洞爺湖サミットの前例を基本とする」ことが厚労省から伝わり、急きょ厚労省と協議を行った。

協議では、本市から「首脳会議前となる会期前半は横浜市が主体となり厚労省が支援」「首脳会議期間を含む会期後半は厚労省が主体となり横浜市が支援」との位置づけを提案し、合意を得た。

厚労省との協議に当たり、本市は厚労省に対し、「首脳等 V I P 用に整備する診療機器は、会期前半から整備し、横浜市の医療チームにも使用させてほしい」「V I P 用診療機器の整備費用（主にレンタル経費）は全額厚労省で負担してほしい」旨を申し入れ、いずれも了承を得た。

また、災害医療体制の強化策としては、会期前半に D M A T 等の事前協力を申し入れ、「可能な限り対応する」との回答を得た。

## 4 今回の救急・災害医療体制の特徴

- (1) 厚労省との協働による現地医療本部の運営

会場内に現地医療本部に設置し、本市及び厚労省が一体となって救急・災害医療体制を運営指揮した。

#### 現地医療本部

会期前半：インターコンチネンタルホテル客室に横浜市が設置し、厚労省連絡員が参加。

会期後半：けいゆう病院に厚労省が現地医療対策本部を設置し、会期前半の医療本部を第2本部として運営。それぞれの本部に本市連絡員を派遣し、本市と厚労省が一体となり運営指揮した。

なお、けいゆう病院の会議室は本市が交渉し借上げたが、室料は全額、厚労省が負担した。

#### (2) 「救急チーム横浜」の編成

本市が関与した国際会議等の救急医療に関する運営は、これまで市大センター病院に業務負担が集中していたが、今回は市大センター病院のほか、市民病院、みなと赤十字病院、東部病院、けいゆう病院による共同チーム（以下「救急チーム横浜」）を編成し負担の分散を図った。

また、メディカルオフィスへの医師派遣については、市医師会にも協力を要請した。

「救急チーム横浜」による運営は、当初目的を円滑かつ的確に遂行しただけでなく、市内医療機関の一体感を生み出し、けいゆう病院にあっては立地条件を生かした役割が明確に位置づけられた。

今回の取り組みは、今後の運営スタイルの基盤形成の観点からも意義があった。

#### (3) メディカルオフィス・VIP用救護室など重層的な医療提供体制を整備

従来は救護室（今回のメディカルオフィスに相当）を設置し、会議参加者に一律の初期救急医療をサービスしていたが、今回は開催国に義務付けられたメディカルオフィス（会議センター及びメディアセンター（展示ホール））の2か所に設置。外務省の指示により初期診療及び投薬を無償サービスのほか、首脳等のVIP用救護室を設置するなど重層的な医療提供体制を整え、万全を期した。

VIP用救護室は、沖縄サミットや洞爺湖サミットの例に倣い、設置したものである。設置場所は、外務省によりインターコンチネンタルホテル7階のジュニアスイートルームが割り当てられた。

客室内に配備した医療資機材は厚労省によるレンタルのほか、首脳等対応医師チーム（都内大学病院）や本市市民病院から持ち出し、施設的には申し分ないものであったが、医療資源が沖縄や洞爺湖とは異なる本市にあって、過去に倣った救護室の必要性については意見が分かるところでもあった。一方、アメリカやカナダが救護室を確認に来るなど、対外的に要素も多分にあり、国の判断に従うべきところと考える。

なお、終了後の反省会では、実際に整備したVIP用救護室について「厚労省と本市の運営コンセプト（厚労省はVIP限定、本市はVIP以外であっても症状によっては診療）は同一にするべきであった」「部屋の機能は良かったが、患者動線が悪すぎた。搬送を考慮すべきであった」との意見が出された。また、メディカルオフィスについては「外務省の判断とはいえ、あまりにも診療機能が貧弱であった」との意見が寄せられた。



(4) 医療従事者を統括するメディカルディレクターを配置

会場内の複数の場所で医療サービスが提供されることから、初めての試みとして、これら医療従事者を統括する立場であるメディカルディレクターを配置した。

メディカルディレクターは、会場内の医療活動を統括するほか、搬送先医療機関の調整を任務としたため、市内の医療機関の事情に精通している市内の救命救急センター長をもって充てた。

なお、会期後半についても、その役割が不可欠であることを本市から厚労省に進言し、会期前半と同様に配置した。(12時間交替による24時間体制)

(5) 首脳等宿泊ホテルへの支援として医療コンシェルジュを実施

首脳等宿泊ホテルで生じた救急案件へのサポートを行う医療コンシェルジュを実施した。

厚労省がホテルへの往診態勢を確保した会期後半とは異なり、会期前半は現地医療本部に電話連絡があれば、メディカルディレクターが電話相談に応じ、必要に応じて救急車の手配や搬送先医療機関の調整等を行う医療コンシェルジュを実施することとした。(結果、取扱件数はゼロ)

なお、終了後の反省会では、首脳等宿泊ホテルへの往診態勢や、夜間だけでも医師を配置すべきであった等の意見が寄せられた。

(6) 搬送先病院を事前指定

APEC関連の救急搬送事案については、傷病者の区分ごとに搬送先を振り分ける方式とした。

特に首脳については、厚生労働省により市大センター病院と済生会横浜市東部病院が指定された。

検討当初は、メディカルオフィスへの出務病院(当初は市大センター病院、みなと赤十字病院、市民病院の3病院を予定)が、出務当番日と連動させて、APEC関連の搬送患者を受け入れる計画としていた。しかし、厚労省により首脳等搬送先医療機関が指定されたことに伴い、当初計画を見直し、傷病者の区分ごとに搬送先病院を振り分ける方式に改めたものである。

なお、市大センター病院及び済生会横浜市東部病院は、会期後半の4日間、ICU2床、手術室1室を確保した。(空床確保経費は厚労省が負担)

(7) 災害医療体制強化策及び広域搬送計画の策定

NBCテロ災害等の発生に備え、厚労省・DMAT事務局とも協議を重ね、会期後半については、DMATやNBC専門家チーム等を事前配備するとともに、周辺自治体を含めた多数傷病者発生時の搬送計画を策定した。

また、各災害拠点病院に対しては、二度の集合研修(説明会)を行い、災害発生時の運用態勢を確認したほか、事前訓練の実施や期間中の院内体制の強化等について協力要請を行った。

リーダーズウィーク中はDMAT事務局が現地医療本部に常駐し、本市との連携を確保した。また、会期後半はDMAT8隊、NBC専門家医師チーム2隊が会場内に待機した。広域搬送計画の策定では、市内災害拠点病院の1時間以内に応需できる重症患者数等を調査し、その数値(25人)を参考に市内災害拠点病院のキャパシティを設定した。傷病者数が上限値を超えた場合は、安定化が図られた患者を市外応援救急隊や消防ヘリ、ドクターヘリにより市外及び県外の災害拠点病院に転院搬送する計画を策定。本計画の策定にあたり東京都、千葉県、静岡県、埼玉県に協力要請を行った。



## 5 診療実績等

### (1) 会場内

区分		7日	8日	9日	10日	11日	12日	13日	14日	計
救護室受診等	インターコンチネンタル(VIP対応)	0	0	0	0	0	0	1(※1)	0	1
	会議センター・メディアオフィス	0	4	4	1	1	0	2	1	13
	メディアセンター・メディアオフィス	0	1	1	2	4	2	4	5	19
	計	0	5	5	3	5	2	7	6	33
(内数)救急隊搬送患者数		0	0	0	0	0	0	0	1(※2)	1

※1 宿泊ホテルに首脳対応医師等チームを往診したもの(処方のみ)

※2 メディアセンター・メディアオフィス受診者(展示場通訳)を、けいゆう病院に搬送したもの

### 【会場内限定】APEC救急取扱事案一覧

(パシフィコ横浜)

No.	月日	受診時間	受診方法 (独歩の有無)	年齢	性別	国籍	APECとの関係 (首脳、閣僚、政府代表者、プレス、警察、警備等)	転記 (帰宅、入院)	診断名	対応場所 (インタコ、会議C、メディアC)	備考
1	11月8日	9:50	独歩	不明	男性	日本	外務省	復職	足底部水泡両足	会議C	相談、ガーゼ渡す
2	11月8日	12:35	独歩	53	女性	日本	外務省	帰宅(けいゆう病院へ通院)	嘔気	メディアC	病院にて点滴、下痢止めを処方
3	11月8日	13:10	独歩	55	男性	日本	外務省	復職	上気道炎	会議C	処方(ベンザブロック)
4	11月8日	15:30	独歩	28	女性	日本	経産省	帰宅(けいゆう病院へ通院)	膀胱炎の服薬相談	会議C	
5	11月8日	17:25	独歩	30	女性	日本	外務省	復職	感冒	会議C	処方(ベンザブロック)
6	11月9日	12:58	独歩	30	男性	インドネシア	政府関係者	復職	腰痛症	会議C	処方(湿布)
7	11月9日	13:58	独歩	48	男性	日本	神奈川県警	復職	腹痛	会議C	処方(湿布)
8	11月9日	14:08	独歩	20	女性	日本	外務省	休息	ふらつき、嘔気	会議C	休息、16時職場復帰
9	11月9日	14:52	独歩	32	女性	日本	外務省	復職	右足首痛	会議C	処方(湿布)
10	11月9日	17:35	独歩	44	男性	日本	警備員	復職	上気道炎	メディアC	処方(ベンザブロック)
11	11月10日	9:45	独歩	47	男性	日本	外務省 (シンガポール大使館)	復職	上気道炎	会議C	処方(ベンザブロック)
12	11月10日	11:37	独歩	35	女性	日本	外務省	復職	感冒	メディアC	本人持参薬対応
13	11月10日	15:42	独歩	39	女性	日本	その他	復職	頭痛、吐気	メディアC	MD対応、1時間ほど横になり、その後復職
14	11月11日	9:10	独歩	20代	男性	日本	警察官	復職	湿疹、あかざれ	会議C	軟膏、絆創膏
15	11月11日	10:00	独歩	29	女性	香港	プレス	復職	顔面湿疹	メディアC	軟膏
16	11月11日	15:45	独歩	26	女性	日本	外務省	復職	腰部打撲	メディアC	処方(湿布)
17	11月11日	17:00	独歩	53	女性	日本	外務省	復職	感冒	メディアC	処方(ベンザブロック)
18	11月11日	17:55	独歩	37	男性	日本	プレス	復職	頭痛	メディアC	処方(ベンザブロック)
19	11月12日	12:35	独歩	28	男性	アメリカ	プレス	復職	感冒	メディアC	処方(パファリン)
20	11月12日	13:26	独歩	26	女性	日本	プレス	復職	頸肩腕症候群疑い	メディアC	処方(パファリン)
21	11月13日	8:18	独歩	39	男性	日本	プレス	復職	左手第一指切傷	メディアC	圧迫止血(テープ固定)けいゆう受診
22	11月13日	13:31	独歩	42	女性	チリ	政府関係者	復職	頭痛	会議C	処方(セデス)
23	11月13日	13:57	独歩	48	女性	日本	警備員	復職	感冒	メディアC	処方(ベンザブロック)
24	11月13日	15:40	独歩	42	女性	チリ	政府関係者	復職	頭痛(再受診)	会議C	血圧再測定、休息
25	11月13日	16:00	独歩	43	男性	ブルネイ	政府関係者	復職	捻挫(左足首)	メディアC	処方(湿布)
26	11月13日	17:00	独歩	29	男性	韓国	プレス	復職	頭痛	メディアC	処方(セデス)
27	11月13日	20:03	往診	56	男性	マレーシア	高級実務者 (駐日大使)	復職	胃腸炎	首脳対応 チーム 往診	処方
28	11月14日	10:35	徒歩	30	男性	日本	外務省	復職	左小趾水疱	メディアC	消毒、ガーゼ保護
29	11月14日	11:34	徒歩	49	男性	フィリピン	プレス	復職	歯痛	メディアC	処方
30	11月14日	12:26	徒歩	29	男性	アメリカ	政府関係者	復職	肋間神経痛疑い	会議C	内服、湿布
31	11月14日	13:10	徒歩	24	男性	日本	警察官	復職	上気道炎	メディアC	処方(ベンザブロック)
32	11月14日	13:30	徒歩	42	男性	ロシア	プレス	復職	胃酸過多	メディアC	処方
33	11月14日	16:55	徒歩	22	女性	日本	その他	救急搬送 診療後帰宅	虫垂炎の疑い	メディアC	会場内専任救急隊搬送

会場内取扱傷病者 分類表

区分	7日	8日	9日	10日	11日	12日	13日	14日	計	%
首脳									0	0.0%
閣僚・高級実務者							1		1	3.0%
外国政府関係者			1				3	1	5	15.2%
外務省職員		4	2	2	2			1	11	33.3%
経産省職員		1							1	3.0%
警察官			1		1			1	3	9.1%
警備員			1				1		2	6.1%
プレス					2	1	2	2	7	21.2%
その他				1		1		1	3	9.1%
計	0	5	5	3	5	2	7	6	33	100.0%

現地医療対策本部取扱事案一覧

No.	月日	相談時間	発生現場	年齢	性別	国籍	APECとの関係 (首脳、閣僚、 政府代表、プ ス、警察、警備 等)	相談内容	対応	対応病院	転帰 (帰宅、入 院)	備考
1	11月12日	17:03	ロイパ	女	53	(不明)	(不明)	膀胱炎。アレルギーのためマクロライド抗生剤希望(ホテル職員からの電話)	けいゆう病院への受診勧奨	(不明)	(不明)	けいゆう病院への受診は確認できず
2	11月13日	18:50	パンパシ	男	61	ペルー	首脳 (大統領)	県警から救急課に「ペルー大統領が体調が悪いので入院させたいとの情報があるが、承知しているか」との照会あり。救急課から医療対策本部に対応依頼あり。	ホテル2階で休憩中。首脳対応医師等チーム・救急車に出場待機を指示。19:25独歩で自室に戻る。	なし	なし	適正な情報ルートを徹底
3	11月13日	20:03	インタコ	男	56	マレーシア	高級実務者 (駐日大使)	腹痛・下痢。夕食会終了後に宿泊先(ベイシヤラ)まで往診してほしい。	夕食会終了に合わせ、首脳対応医師等チームをベイシエラに派遣。診察の結果、胃腸炎(処方のみ)で終了。	なし	処方	第一報は、宿泊先であるベイシエラから
4	11月14日	16:55	メディアC	女	22	日本	展示ホール 通訳	腹痛でメディアCメディカルオフィスを受診。	虫垂炎の疑い。会場専任救急隊がけいゆう病院に搬送(メディカルディレクターが病院調整)	けいゆう	帰宅	17:24 指令 17:25 出場 17:27 現着

<補足>

- ①首脳会議にあわせ12日～14日は、首脳等宿泊ホテルへの往診体制も用意
- ②VIP対応の1件(13日)は、宿泊ホテル(横浜ベイシエラトン)へ往診し処方したもの
- ③メディアセンターのメディカルオフィスは、メディアの入りに比例して利用者が増加
- ④会期前半のメディカルオフィス利用者の大半は中央省庁職員
- ⑤メディアセンター側から救急隊が1人を搬送(虫垂炎の疑い)。検査後、帰宅
- ⑥全員軽症

## (2) ホテルからの照会・要請件数

区 分		7日	8日	9日	10日	11日	12日	13日	14日	計
会場・ホテル からの要請等	インターコンチネンタル	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ロイヤルパーク	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	パンパシフィック	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	ホテルニューグランド	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	横浜ベイシエラトン	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	計	0	0	0	0	0	1	2	0	3
(内数)救急隊搬送患者数		0	0	0	0	0	0	0	0	0

## &lt;補足&gt;

3件の概要は以下のとおり

## ①12日 ロイヤルパークホテル

体調不良の要人情報 →医師に往診準備を指示 →自室に戻ったとの情報で準備待機解除

## ②13日 パンパシフィックホテル

持病に伴う薬（マクロライド抗生剤）の要求 →現地医療本部がけいゆう病院を紹介

## ③13日 横浜ベイシエラトンホテル

体調不良で診察を希望している政府高官がいるとの情報連絡 →公務終了後に往診・処方

## (3) 指定病院ごとの診療実績

区 分		7日	8日	9日	10日	11日	12日	13日	14日	計
病院受診 (walk in 含む)	市大センター病院	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	済生会東部病院	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	みなと赤十字病院	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市民病院	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	けいゆう病院	3	6	2	5	5	5	7	3(※3)	36
	計	3	6	2	5	5	5	7	3	36

※3 ※2によりメディカルオフィスから救急搬送された1件を含む。

## &lt;補足&gt;

①APEC関係者と判明できた受診者は、けいゆう病院のみ

②けいゆう病院受診者の7割は警察官

③警察官に急性胃腸炎が続いていたことから、健康安全課を通じて県警にノロウイルス等の注意喚起を実施

指定病院取扱事案一覧

No.	月日	受診時間	搬送方法(救急車、その他)	年齢	性別	国籍	APECとの関係	転帰	診断名	指定病院	備考
1	11月7日	10:25	他	27	男	日本	警察	帰宅	感冒	けいゆう	熊本県警
2	11月7日	10:45	他	25	男	日本	警察	帰宅	感冒	けいゆう	長野県警
3	11月7日	13:20	他	31	男	日本	警察	帰宅	感染性腸炎	けいゆう	鹿児島県警
4	11月8日	9:30	他	26	女	日本	警察	帰宅	急性胃腸炎	けいゆう	大阪府警
5	11月8日	10:14	他	59	男	日本	警察	帰宅	背部粉瘤	けいゆう	神奈川県警
6	11月8日	13:15	他	53	女	日本	国	帰宅	急性胃腸炎	けいゆう	外務省
7	11月8日	16:18	他	28	女	日本	国	帰宅	膀胱炎	けいゆう	経済産業省
8	11月8日	19:55	他	26	男	日本	警察	帰宅	感冒	けいゆう	群馬県警
9	11月8日	22:58	他	22	男	日本	警察	帰宅	急性胃腸炎	けいゆう	熊本県警
10	11月9日	11:34	他	58	男	日本	警察	帰宅	捻挫疑い(1ヶ月前から)	けいゆう	神奈川県警
11	11月9日	20:45	他	22	男	日本	警察	帰宅	急性胃腸炎	けいゆう	熊本県警
12	11月10日	9:16	他	29	女	日本	警察	帰宅	膀胱炎疑い	けいゆう	埼玉県警
13	11月10日	13:25	他	24	男	日本	警察	帰宅	左足首捻挫	けいゆう	神奈川県警
14	11月10日	13:45	他	22	男	日本	警察	帰宅	上軌道炎	けいゆう	北海道警
15	11月10日	15:20	他	64	男	日本	国関係機関	帰宅	右第二趾挫創	けいゆう	救急医療財団
16	11月10日	17:15	他	34	男	日本	警察	帰宅	急性胃腸炎	けいゆう	静岡県警
17	11月11日	9:40	他	33	男	日本	警察	帰宅	上気道炎	けいゆう	広島県警
18	11月11日	9:43	他	56	男	台湾	その他	帰宅	上気道炎	けいゆう	台北駐日 経済文化代表
19	11月11日	10:35	他	27	男	日本	警察	帰宅	抜歯牙治癒不全	けいゆう	滋賀県警
20	11月11日	14:17	他	26	男	日本	警察	帰宅	上気道炎	けいゆう	群馬県警
21	11月11日	18:25	他	21	男	日本	警察	帰宅	上気道炎	けいゆう	岩手県警
22	11月12日	8:20	他	33	男	日本	警察	帰宅	頭部割創	けいゆう	静岡県警
23	11月12日	10:00	他	31	男	日本	警察	帰宅	带状疱疹	けいゆう	兵庫県警
24	11月12日	11:10	他	24	男	日本	警察	帰宅	感冒	けいゆう	長崎県警
25	11月12日	13:07	他	47	男	日本	警察	帰宅	感冒	けいゆう	静岡県警
26	11月12日	15:50	他	40	男	日本	その他	帰宅	気管支炎	けいゆう	DMAT
27	11月13日	11:54	他	47	男	日本	警察	帰宅	胃痛	けいゆう	山梨県警
28	11月13日	12:01	他	27	男	日本	警察	帰宅	急性腸炎	けいゆう	熊本県警
29	11月13日	12:40	他	27	男	日本	警察	帰宅	急性腸炎	けいゆう	北海道警
30	11月13日	14:33	他	39	男	日本	プレス	帰宅	左第1指切創	けいゆう	日経新聞
31	11月13日	18:27	他	22	男	日本	警察	帰宅	発熱	けいゆう	北海道警
32	11月13日	20:10	他	32	男	日本	警察	帰宅	胃腸炎	けいゆう	長野県警
33	11月13日	20:45	他	26	男	日本	警察	帰宅	左肩痛	けいゆう	大阪府警
34	11月14日	8:00	他	26	男	日本	警察	帰宅	左肩脱臼	けいゆう	岐阜県警
35	11月14日	8:50	他	37	男	日本	警察	帰宅	急性胃炎	けいゆう	神奈川県警
36	11月14日	16:55	救急車	22	女	日本	その他	帰宅	虫垂炎	けいゆう	医療本部調整案件

## 6 経費

救急・災害医療体制確保に係る本市負担額は、外務省及び厚生労働省との協議、さらには指定医療機関等の御理解により、最小限に抑えることができた。

<主な負担区分>

区分	救護室整備費			医師・看護師への報償費		空床確保
	インターコンチ723	会議センター	メディアセンター	会期前半	会期後半	
外務省	①・②	①・③	①・③	④		⑤
厚生労働省	⑥・⑦・⑧	⑥	⑥		⑨	⑩
横浜市	⑪			⑫		

外務省 ①消耗品（文房具、シーツ等）

②客室料（会期前半分）

③診療器具・医薬品

④会場内医師及び看護師への報償費（医師会・みなと赤十字病院のみ）、医師保険

※他院は、病院業務（出張）として取り扱ったため支弁なし。

⑤みなと赤十字病院への空床確保経費（閣僚の搬送先指定病院）

厚労省 ⑥備品（パソコン、通信機器等）

⑦客室料（会期後半分）

⑧人工呼吸器、各種モニター装置、診療ベッド等（医薬品は出務病院から搬入）

⑨会場内医師及び看護師への報償費等（会期後半のDMA T・NBC 専門家医師等を含む）

⑩市大センター病院及び済生会横浜市東部病院への空床確保経費（首脳搬送先指定病院）

横浜市 ⑪会期前半使用分の消耗品費

⑫メディカルディレクター

※みなと赤十字病院のみ（メディカルディレクターは市独自の対応とされ、外務省の支弁対象外と判定）

## 7 終了後反省会でのメディカルディレクター等の感想

終了後に行った反省会では、以下の意見が寄せられた。（一部の声は前記において引用）

- ・インターコンチネンタルに設けた救護室は必要。ただし、国と市とのコンセプトは同じにするべきである。VIPしか診ないのはいいか。また、部屋はよかったが、動線が悪すぎる。患者搬送をもっと考えて配置するべきだ。
- ・メディカルオフィスはあまりにも貧弱だった。
- ・夜間だけでもホテルに医師を配置すべきだったのではないか。
- ・けいゆう病院に負担がかかりすぎたのではないか。（けいゆう：「普通です」との返答）
- ・国・県・市内医療機関と調整が大変だったようだが、もっと横浜市がどんどん決めて良かったのではないか。
- ・市内の災害医療拠点病院が集まることができよかった。今後も定期的に会議を持てるとよい。
- ・院内の説明書等を英語対応にすることに最も苦労した。
- ・災害用の薬の調達が大変だった。特に普段使わない薬の購入は大変であった。
- ・脳外科、心臓外科、麻酔科など特定の診療科が配置強化できず困った。

- ・当院も麻酔科は足りなかった。DMATの手を借りる場面もあった。DMATの配置もいろいろと考えてもいいかもしれない。
- ・外務省の対応がよくわからなかった。
- ・外国の大使館等からの問合せがあった。エコノミーへの情報提供が不十分だったのではないか。
- ・アフリカ会議のときに比べれば、情報がたくさん入ってきてよかった。
- ・ロジ室に1名派遣できたのは良かった。情報の収集は大変だったが、多くの情報を得られた。過分な情報もあったかもしれないが、医療現場で必要と思われるものは提供できたと思う。
- ・消防局のFネットが実際役に立ったのか検証が必要。(救急課→今回の経験を活かし、Fネット、EMISを活用できるように検討していきたい。)
- ・横浜市ももっと予算を取るべきだ。

## 8 今後の課題

### (1) VIP対応の救護室の在り方

厚生労働省の発案により整備したVIP対応の救護室（インターコンチネンタルホテル客室に整備）は、過去の洞爺湖サミットに倣ったものであるが、前述したように今後のVIP対応の救護室の在り方については、今回の実績を踏まえ厚労省（場合によっては外務省も含め）とよく協議する必要がある。

### (2) メディカルオフィスの機能強化

2か所のメディカルオフィスの診療機能は強化すべきである（今回のレベルは学校の保健室程度であり、いずれにしても診療機能の強化は不可欠）。メディカルオフィスの医療機器と医薬品は、今回、医薬品の拋出を一手に担っていただいた市民病院のほか、市大センター病院の協力を仰ぐことで十分に対応できる。

### (3) 首脳等宿泊ホテルへの往診態勢の確保

横浜市が担当した会期前半は、往診ではなく電話相談（医療コンシェルジュ）としたが、会期後半の厚労省のように往診態勢を準備する、あるいはホテルに医師を配置することが望ましい。

今回の経験を踏まえたことで、市内の救命救急センター長等の理解は得られやすくなった。

### (4) 外務省との協議の在り方

医療分野の検討は、医療従事者抜きには検討が深まらない。厚労省との協議は、医療政策課が窓口となったため迅速な対応が図れたが、外務省との協議では、（外務省の意向により）APEC開催推進課のみが窓口となり、医療政策課が関与できなかった。この弊害は再三にわたって申し入れたが、不合理・非効率的であるだけでなく、APEC開催推進課に過度の負担が生じかねない。事実、終盤になって外務省の思い込みにより事実と異なる医療体制が表面化したこともあった。

今後の協議・交渉にあっては、必ず医療政策課を交えるよう強く要望するべきである。

### (5) 災害医薬品の確保

本市が市内9病院に備蓄している災害医薬品の種類及び確保量（必要量）について、再度検討することが必要である。

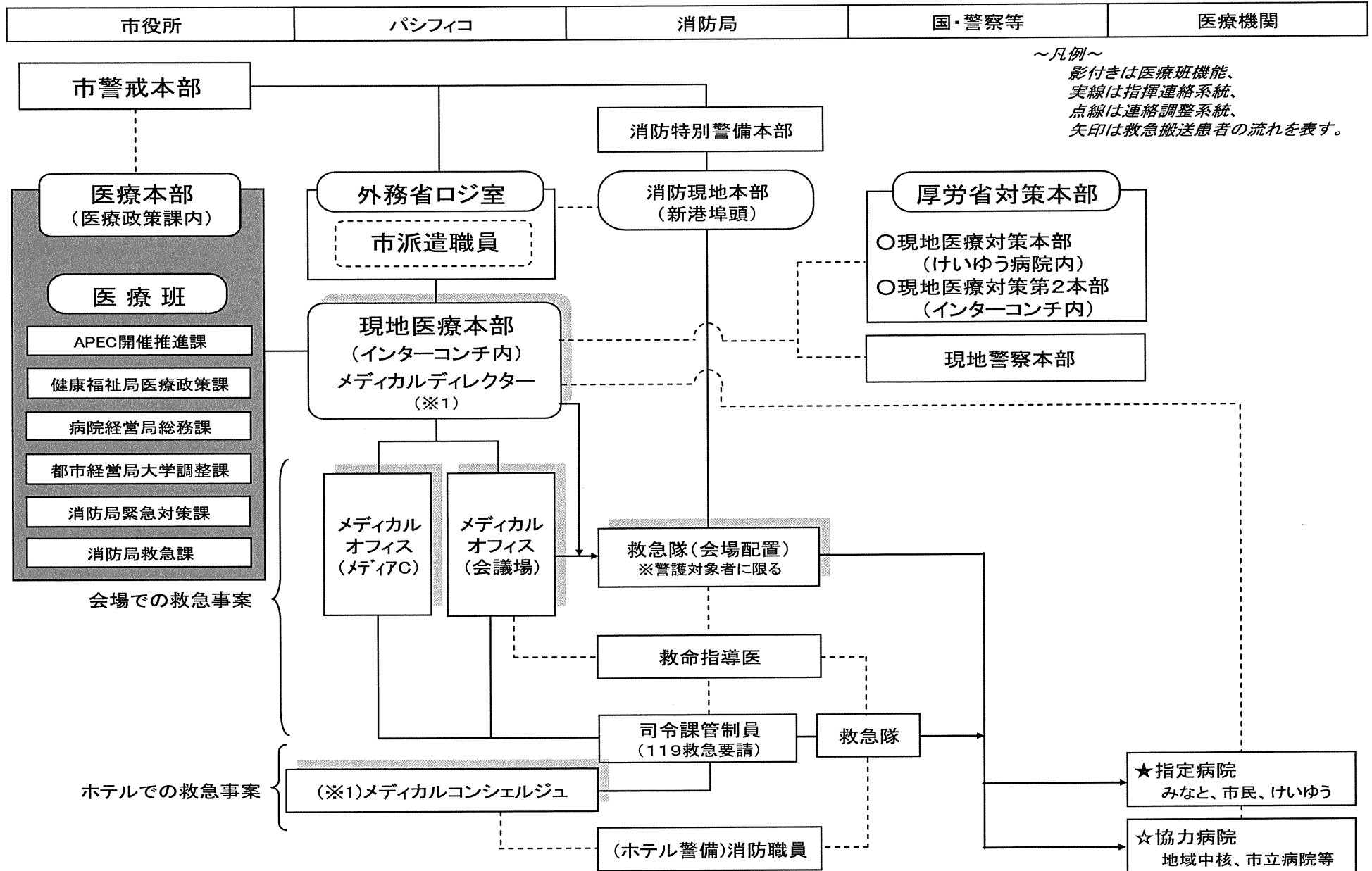
## 9 総括

- (1) 従来の国際会議等の会場内救急医療体制は、市大センター病院に全面的な協力を仰ぎ確保してきたが、今回は救命救急センターを有するみなと赤十字病院、市民病院、済生会横浜市東部病院に協力を求め、さらにYMAT編成病院や会場直近のけいゆう病院までも加えた「救急チーム横浜」を編成し体制を確保した。
- (2) 今回の「救急チーム横浜」による取り組みは、会場内の医療体制を合理的かつ円滑に運用しただけでなく、今後の横浜市救急医療体制の充実強化に繋がる効果も期待できるなど、非常に有意義であった。
- (3) 今回の災害救急医療体制の検討及び各種訓練等により、市内災害拠点病院における災害医療対策への認識が大幅に向上したとの声が挙がっている。今回の取り組みをこの場限りにせず、継続的に推し進めていくことが重要である。
- (4) 今回、厚生労働省・DMAT（災害医療チーム）等と協働して態勢確保に取り組めたことは、横浜市にとって大きな財産になった。今後の通常業務においても、今回の協力関係を有効に活用していきたい。
- (5) 今回の取組みにより、市内の救命センターを有する病院をはじめ、各災害拠点病院から「災害医療への院内意識が向上した」との声が多く届けられた。こうした意識高揚を風化させないための継続的な取組みを進めたい。例えば、リーダーズウィークを記念して、毎年の同期間を「APECメモリアルウィーク」に設定し、災害拠点病院を中心とした災害対策訓練を行うことも一案である。

## 10 参考資料

- (1) 資料1 APEC 災害救急医療体制組織体系図
- (2) 資料2 現地救急医療体制部屋割り計画
- (3) 資料3 APEC 救急・災害医療体制計画表
- (4) 資料4 APEC 救急医療体制救急搬送フロー
- (5) 資料5 インターコンチネンタル救護室の診療機器及び医薬品一覧
- (6) 資料6 メディカルオフィスの設置場所並びに診療機器及び医薬品
- (7) 資料7 APEC 災害時救急搬送及び医療機関受入れの概念図
- (8) 資料8 多数傷病者発生時の災害拠点病院を中心とした救急搬送フロー

# 資料1 APEC 災害救急医療体制組織体系図





## 資料2 現地救急医療体制 部屋割り計画

場所	展示ホール	インターコンチ	会議センター
使用形態	メディアセンター	宿泊	会議
市現地警戒本部			外務省ロジ室内 消防局緊急対策課(1)
現地医療本部 ( 会期後半は 厚労省現地医療対策 第2本部と合同使用 )		722・723号室 ★本部機能(24H体制) 医療政策課責任職(1) メディカルディレクター(1) 厚労省連絡員(1) ☆救護室～首脳等対応 8:00～会議等終了 医師(1) ※市民、みなと 看護師(1) 通訳(1) 事務(医療政策課)(1) 救急課職員(1)	
救急対応 ( 会期後半は 厚労省首脳対応 チームが対応 )			
メディカルオフィス ( 会期後半は DMATが対応 )	1階の既設救護所 11/9～11 8:00～18:00 横浜市医師会(1) 看護師(1)、通訳(1) 事務(医療政策課)(1)		1階の既設救護所 11/7～11 8:00～18:00 YMAT(1) 看護師(1)、通訳(1) 事務(医療政策課)(1)
救急隊待機	B14 救急隊員(3)		
関係機関調整所 ( 会期後半は DMATが使用 )	BM3(中2階) 医療政策課責任職 DMAT事務局 神奈川県		

※会期後半は、けいゆう病院13階会議室に厚労省医療対策本部が設置され、医療政策課責任職がリエゾンとして加わる予定。

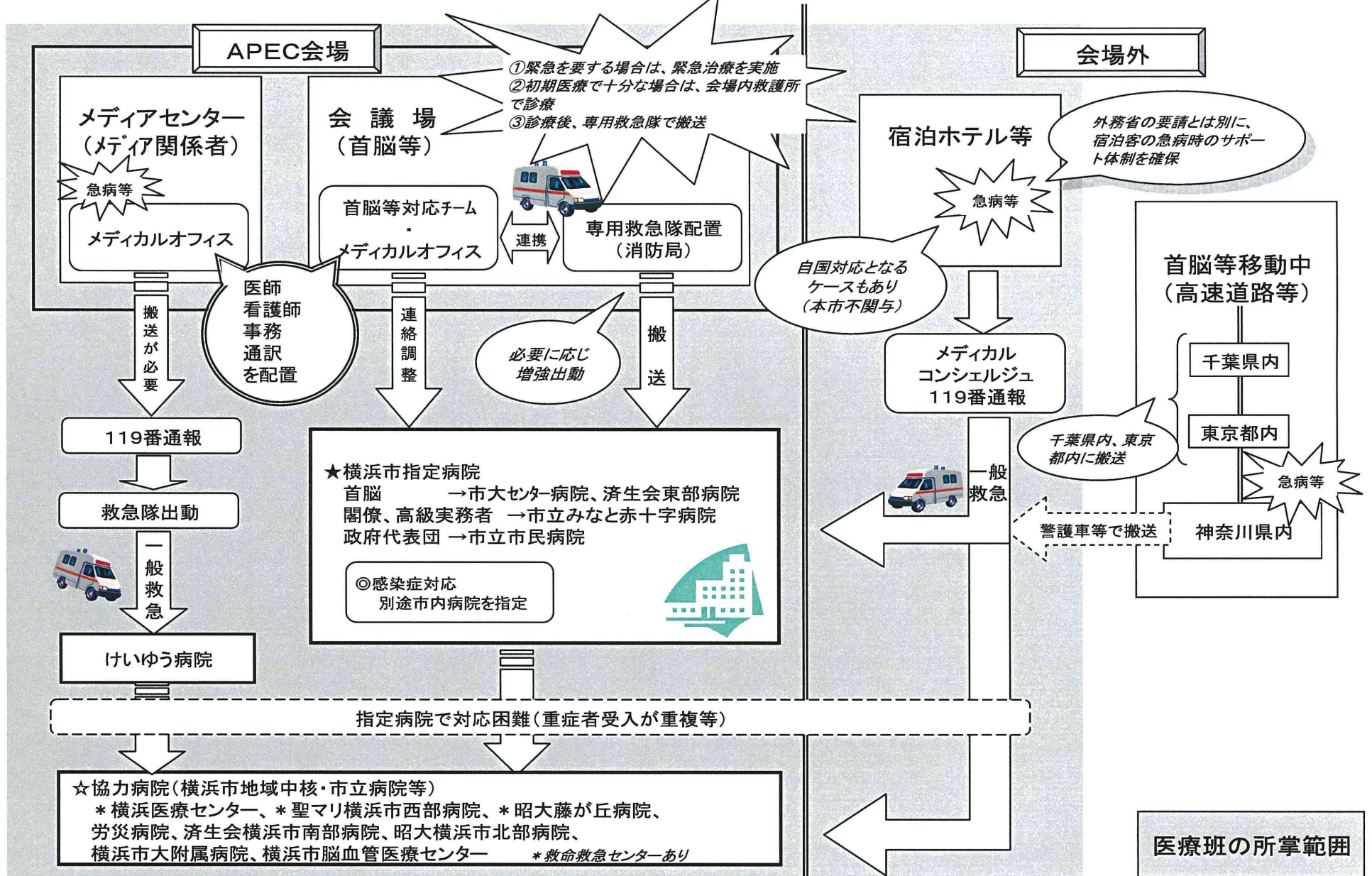
※太枠部分が医療行為が行われる場所

### 資料3 APEC 救急・災害医療体制計画表

日		7	8	9	10	11	12	13	14	15	
曜日		日	月	火	水	木	金	土	日	月	
会 合	政 府	実務者会合			閣僚会議			首脳会議			
	経 済 界	ABAC会議			SMEサミット	CEOサミット					
主 体		横 浜 市					厚 労 省				
協 力		厚 労 省					横 浜 市				
メディカルディレクター(現地医療本部内:24時間体制)		伊巻Dr	鈴木Dr	八木Dr	伊巻Dr	八木Dr	鈴木Dr	北野Dr	鈴木Dr	伊巻Dr	
首脳等救護室(現地医療本部内 8:00～行事終了まで)		横浜市立市民病院		横浜市立みなと赤十字病院			首脳対応医師等チーム (慶応、日本医科、杏林、帝京)				
救急医療	メディカル オフィス (8:00～18:00)	会議センター救護所	YMAT(横医C)	YMAT(昭大藤が丘)	YMAT(聖マリ西部)		DMAT				
		メディアセンター救護所	—	—	横浜市医師会			DMAT			
	首脳等 宿泊ホテル	夜間の急病対応	メディカルディレクターによるコンシェルジュ					首脳対応医師等チーム			
	搬送先	APEC参加国首脳、首脳夫人	—	—	—	—	—	横浜市大センター病院 済生会横浜市東部病院			
		閣僚・高級実務者等	横浜市立みなと赤十字病院								
		各国政府代表団	横浜市立市民病院					横浜市立市民病院・みなと赤十字病院			
		マスコミ関係者	けいゆう病院					けいゆう病院			
		警察・警備関係者	けいゆう病院					けいゆう病院			
警護対象者以外 (上記病院で対応不可時を含む)		横浜市地域中核・市立病院等(*横浜医療センター、*聖マリ横浜市西部病院、*昭大藤が丘病院、労災病院、済生会横浜市南部病院、昭大横浜市北部病院、横浜市大附属病院、横浜市脳血管医療センター) *救命救急センターあり									
災害医療	搬送先	警護対象者	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     災害現場救護所 (トリアージ)                 </div> ※警護対象者はセンター病院、東部病院 ※その他は区分せずに傷者人数に応じて搬送先を拡大 ※重症者は救命C				市大センター病院、済生会東部病院				
		各国政府代表団					市内指定病院(センター病院、みなと赤十字病院、市民病院)				
		マスコミ関係者					市内災害医療拠点病院(横浜市地域中核病院・市立病院等)				
		警察・警備関係者					災害拠点病院(神奈川20、東京69、千葉19、埼玉13、静岡19等)				
	その他一般										
出動医師	爆弾テロ災害	YMAT及びDMAT					DMAT				
	NBC災害	YMAT及びDMAT					DMAT及びNBC対応班				

※ 消防の現地警戒本部は11月7日～14日までの間。会場配置の専用救急隊は11月7日～15日までの間。

# 資料4 APEC救急医療体制 救急搬送フロー



医療班の所掌範囲

## 現地医療本部(救護室)の診療機器及び医薬品一覧

### ◆現地医療本部内救護室

インターコンチネンタルホテル用	個数
<b>1. 医療機器・資器材</b>	
1) 人工呼吸	
(1) 蘇生用バッグ・バルブ・マスク	3
2) 酸素吸入用	
(1) ポンベ	
2L	2
5L	1
(4) 減圧弁(流量計付)	3
(3) 人工呼吸器	
搬送用人工呼吸器(パラパック 200D相当)	1
人工呼吸器(ハミルトン相当)	1
(4) 患者監視装置	
BSM-2301(心電図・呼吸・酸素飽和度・血圧測定)	2
(5) 除細動器	
TEC-7700	2
(6) 胸骨圧迫装置	
オートパルス(自動胸骨圧迫装置)	1
(7) 心電計	
ECG-1350	1
(8) パルスオキシメーター	
SAT-2100(小型酸素飽和度測定装置)	1
(9) 携帯用超音波診断機器	
SonoSite 180 PLUS相当	1
(10) 点滴台	1
(11) 輸液ポンプ	1
(12) シリンジポンプ	0
(13) 車椅子	1
(14) 自動体外式除細動器	
AED-2100(ガイドライン2005対応)	2
<b>2. 備品</b>	
(1) 絨毯の上に敷くマット	1
<b>3. 消耗品</b>	
(1) 感染対策キット(マスク・帽子、手袋、ガウン入り)	3
(2) 医療用廃棄物含むゴミ箱	0